

「包公案」を構成する世界

—— 神と人と動物 ——

阿部泰記

一 序

『太平広記』には、狄仁傑が偽装した盗賊を看破したり、鄭子産が悲哀の感情が無い慟哭を聴いて未亡人の親夫殺害を感じしたりする名判官の「精察」故事を載せており、後世の『疑獄集』にも、殺人を焼死に偽装した事件を口中の灰燼の有無で判定する話を載せ、吳沃堯の中国の探偵小説観にも「明察」を挙げて、シャーロック・ホームズの明察に相当するものと評価している〔1〕。「包公案」にも「精察」に相当する話が見られる。たとえば『劉梁友輝』（山東・両夾弦）では、包公は梁貴妃の顔色が変わったのを見て、宋王毒殺の陰謀を企てたのは梁貴妃だと悟り、『烙碗計』（安徽・廬劇）・『節義賢』（浙江・婺劇）では、石臼が子供の動かせるものではないと考えて、定生を誣告する劉自忠の後妻馬氏を処刑するのがそれである。

しかし「包公案」では包公一人の明察で事件を解決する話は少なく、被害者である主人公の物語が先に語られ、その後包公が登場する話が多い〔2〕。上記の『劉梁友輝』では、梁貴妃と皇親梁友輝が皇位篡奪を謀略する話があり、『烙碗計』では劉自忠の後妻馬氏が甥定生を虐待

する話が先にある。こうした構造は早期「包公案」である小説『紅綃密約張生負李氏娘』（南宋羅燁編『新編醉翁談録』、觀瀾閣藏元刊本、壬集卷一「負心類」収録）から始まっている。この故事は、書生張資が初め女官李氏と密会して夫婦になりながら、張資が帰郷する途中で路銀に困り、妓女越英と同棲して消息を絶つたため、李氏が婢彩雲を同伴して捜索し、張資の背信を知って、越英とともに「包公待制」に訴え、包公は末尾に、「李氏与彩雲俱至、視之果然。李氏突至階下、越英當時謂生曰、『君既有妻、復求奴媼、是君負心之過。』於是三人共爭、以彩雲為証、遂告於包公待制之厅、各各供状。果是張資之負心、遂將其繫於庁監。張資責娶李氏為正室、其越英為偏室。」（李氏が侍女彩雲と一緒に来て見ると、果たして張生であった。李氏が突然階下に至ると、越英はすぐに張生に、『あなたは妻が有りながら私に求婚するなんて、間違っています。』と言って、三人は争い、彩雲を証人として包待制の役所に訴え、それぞれ供述すると、やはり張資が裏切っていたので、彼を牢獄に繋いだ。張資は責任を取って李氏を正室とし、越英を側室として迎えた。）と登場する。この小説では、書生の背信行為を批判する女性たちの描写の方が包公の描写より際だっている。

また宋代話本とされる『合同文字記』（明嘉靖刊『清平山堂話本』収）も、飢饉を乗り切るために兄と「合同文字」を交わして出稼ぎに出た弟が出稼ぎ先で死亡し、十五年後に帰郷した弟の子が伯父とその後妻に拒絶される物語が先に述べられ、包拯は最後に登場して、伯父夫婦を庇おうとする賢明な甥を知県に推薦するという審判を下す。

元の無名氏の雜劇『打打瑯瑯盆兒鬼』では、まず主人公楊国用（正末）が占い師の予言を信じて「百日血光之災」を避けるために行商に出、その帰途に旅館の主人盆確趙と妻撒枝秀に殺害され、瓦釜で焼かれて瓦盆にされ、その怨霊が夫婦を悩ませ、審神（正末）も夫婦に誅罰を加えようとしたため、趙が瓦盆を開封府の老吏張徹古（正末）に贈り、張は瓦盆の訴えを聴いて開封府に携えて行くという話があり、包公（外）はその間の事情を知らず、瓦盆の霊魂が門神に阻まれて府門をくぐれず事件の供述をしないので、張徹古に罰棒を加えたため、張徹古に「包糊塗」だと罵られる次第である。ここでは事件の解決に関わるのは、最後に登場する包公だけではなく、主人公の怨霊、審神、老吏という、鬼神や人物である³⁾。

また関漢卿の雜劇『包待制三勘蝴蝶夢』（元曲選）では、まず「權豪勢要」葛彪が無辜の王老人を打ち殺し、その息子三兄弟が報復するという話があり、その後、包公（外角）は審判に当たって大蝴蝶が小蝴蝶を蜘蛛の網から救出しない夢を見、三兄弟がそれぞれ一人で葛彪を殺したと供述するので、包公は長男を投獄しようとする、母孟氏（正旦角）は包公を「糊塗」だと罵って、長男を投獄すると老後を見る

者がいなくなると訴え、包公が次男を投獄しようすると、また「糊塗」だと罵り、孝行者だといって免罪を請い三男が自首すると言うと、孟氏は始めて許したため、包公は誤って三男が継子であると疑うが、事情を知って始めて別の死刑囚を代わりに処刑して母子を救済する。この劇でも、事件を解決するのは包公であるが、それを導くのは夢を通じた天啓であり、実子を犠牲にする継母の悲哀である⁴⁾。

以上のように「包公案」では、包公は主人公の物語の中にあつて、主人公を救助する役割を果たす鬼神、人物の中の主要な要素として登場するに過ぎないのである。本稿では、「包公案」の作品に出現する構成要素の全体像について分類し、解説を加えることとする。

二 「包公案」の中の神判

「包公案」には、天啓・予兆・夢を通じて天が主人公の冤罪を知らせる故事がある。『太平広記』には、義兄である辺境守備の兵士の帰還を祝う妹婿が料理包丁を持って出迎えたため誤って義兄を刺し殺し、その弁明を信じない唐王智興が処刑を命じると、刀が処刑執行者の手から飛び出して地に隠れ、三度換えても同じだったので処刑を中止した（唐趙璘『因話録』、『太平広記』卷百六十二、感応、「徐州軍士」）、同行の五六十人とともに航海で死亡した兄の遺骨を確認するため陳業が天地に祈って血を遺骨に注ぐと、兄の遺骨だけが血を吸った（呉謝

承『会稽先賢伝』、『太平広記』卷百六十一、感応、「陳業」、愛人が従軍して別の男に嫁がされることになった河間郡の女子が病死し、兵役を終えて帰還した男子が棺を開くと愛情が天地を感動させて、女子が復活して男子に嫁いだ（唐釈道世『法苑珠林』、『太平広記』同上卷、感応、「河間男子」、孝行な臨江郡民が洪水に遭って母を背負って泣いていると、大亀が現れて救った（魏何晏『九江記』、『太平広記』同上卷、感応、「劉京」、などの話を載せている。これらは神判とも言え、「包公案」はこうした「感応」故事を継承していると考えられる。

包公は先帝から下賜された「銅劍」を持っており、それが音を立てて鳴り出して事件を告げる（山東・柳琴戯『二龍山』・『五長幡』・『珍珠汗衫』、安徽・泗州戯『井泉記』）。

また串朝馬或いは烏椎馬は貴人・宝物・血気を感じると動かず、地底まで死体を捜しに行く（山東・柳琴戯『鉄板橋』・『五長幡』、安徽・泗州戯『井泉記』）。

その他、包公の帥主旗が風もなく揺れる（山東・柳琴戯『二龍山』）、冤罪で処刑された死体が倒れない（山東・柳琴戯『珍珠汗衫』、安徽・泗州戯『小鰲山』、山西・上党落子『九華山』）、宝剣が鞘を出て、売国奴の奸臣が出たことを告げる（安徽・泗州戯『井泉記』）などの事件を知らせる兆候がある。

また犯人の名が暗示される例として、包公が道士を殺した犯人を知するために香紙を焚くと、黄表紙の灰が梁上に飛んだので、「梁有灰（梁に灰有り）」すなわち梁友輝が犯人だと悟る（山東・両夾弦『鋤梁友輝』、

処刑執行の時に蒼蠅神が三度刀を押さえ、摧命鼓の皮に賛字を描く（安徽・泗州戯『血掌記』）、包拯が上奏文を起草しようとする時蒼蠅が筆先に止まって字が書けず、包拯が筆を投げると堂鼓の皮に落ちて站字を書いたので、皮賛という人物が犯人だと推測する（山東梆子『小祭椿』）がある。

夢の知らせも重要であり、包公が冥界の土嶺から江に龍が出現するのを見て夢から醒め、旅館の帳簿を調べて姜龍和尚の名を発見し、旅館を出た日付がないことから陳英を問いただす（山東・両夾弦『陰陽報』）、大蝴蝶が二匹の小蝴蝶を救って一匹の小蝴蝶を救わない夢を見る（河北・評劇『包公三勸蝴蝶夢』）、大雨の中で仙桃を食べようとするが食欲がなく、山に押しつぶされ、長王趙子丹が毒殺されて救いを求めている夢を見る（河南・豫劇『天仙録』）、海東放糧から帰還する途中、長王が枷を戴いて毒を飲まされたと訴える夢を見る（山東梆子『天賜鹿』）、張成玉が冤罪で死んだ夢を見る（河南・越調『陰陽断』、豫劇『封相』）、朝廷の夢を見て謀反が起きることを感じて急いで帰朝する（山西・蒲州梆子『薬酒計』）など、暗示的、或いは直接的に知らせる夢が記される。

また「包公案」では、包公が審判を下すが、その審判には天意が加わることがある。「天劍除」故事では、包公は不孝な党金龍に審判を下すわけではなく、孝行な盧文進とともに順次鋤にかけると、党金龍が鋤で斬られるという神判が下るのである（安徽・泗州戯『小欺天』）。なお血液による神判として「陰陽報」故事に、姜龍和尚の転生である

という陳七の言葉を確認するため、陳七の血液を姜龍和尚の骨に垂らすと骨に三分染み込む（山東・両夾弦『陰陽報』）、『滴血珠』故事に、趙全瑤と寶石商張華堂の新生児の血液を盆の中に垂らさせ、血が散開して血縁の無いことを証明して、趙全瑤の婚約者顧成璧の疑念を払拭する（安徽・廬劇『滴血珠』）がある。

三 「包公案」の中の神祇

「包公案」では、主人公を中心に鬼神や人物が登場して、それぞれ役割を果たしている。

そこで最初に神祇について、その役割を考察してみたい。

1. 天帝——冥界にあつて鬼神の最上位にあるのは天帝である。天帝は古来、多くの故事の中で「上帝」「玉皇」「天帝」などの名で出現して、村人の熱病を治したり^⑤、仙女を下界に降誕させたり^⑥、冤罪で処刑された死者の訴えを聴いて復讐を許したり^⑦、冥界の総帥として鬼神を取り締まったり^⑧してきた。「包公案」においては、「瓦盆記」故事において、「玉帝」として、長眉大仙を仁宗として下界に降誕させ、文臣として包拯、武臣として狄青を与え、下界の平和を支持したり（江西・青陽腔『瓦盆記』）、「牡丹亭」故事において、「上神爺」として、牡丹亭で病死した劉玉花に同情して、陰陽宝扇を与えて下界に降ろし、玉花と婚約者の張生を結縁に導いたり（山東

梆子『牡丹亭』）する。

2. 太白金星（李長庚）——太白金星は天帝の使者として主人公を見守る役目を果たす。「太平広記」では、五帝星君の使者として刺史夫妻の贅疾を治したり（前蜀杜光庭『神仙感遇伝』、『太平広記』卷七十五、道術、「張士平」）、閻羅に命を取られる友人を救ったり（唐鄭還古『博異記』、『太平広記』卷三百九、神、「張遵言」）、太白廟の神木を伐る巴人を虎に食わせたり（唐戴孚『広異記』、『太平広記』卷四百二十六、虎、「巴人」）、織女の侍女と駆け落ちして洞窟に隠れたり（唐李元『独異志』、『太平広記』卷五十九、女仙、「梁玉清」）しており、天界の使者としての地位は確立していない。天使は別に光庭『録異記』、『太平広記』卷二十九、神仙、「九天使者」、村人の熱病を治すために上帝に派遣されたり（唐張讀『宣室記』、『太平広記』卷三百七、神、「村人陳翁」）している。ただ星神であり、虎を操る山神であり、恋愛の神であるという特色は、「包公案」にも継承されている。「包公案」では、「釣金龜」故事において、仁義星君の転生した張義が受難十八年で再び転生して呂蒙正になるため、金龜を贈って京都の兄を尋ねさせ、嫂王俊英から殺害される命運を導き（安徽・泗州戲『断双釘』）、「龍鳳鎖」故事において、天界の金童の転生である林逢春と師弟関係にあり、豆腐屋の娘金鳳と密会して窒息した林鳳春の死体を、雷公雷母を遣って山上に運ばせ、林逢春に武芸を教授し、後に子天喜とともに交趾国の侵攻を防がせ（浙江・

紹劇『龍鳳鎖』、「秦香蓮」故事において、插花星の転生である秦香蓮が左右二侯を連れて上京し困難に遭遇しているのを見て、下界に降りて手押し車で母子を京都へ送り（安徽・泗州戯『琵琶詞』、山東・柳琴戯『東秦』も類似）、「仁宗認母」故事では、城隍・土地を召喚して冷宮の李妃を救助させ（河南・豫劇『鋼郭槐』）、「血手印」故事において、林忠徳を婚約者である黄秀蓮に引き合わせるため林に鸚哥を渡し、林を黄家の花園へ導いたり（安徽・黄梅戯『血掌記』）、林招得と王昭娥の姻縁をまとめるため、紙風を林招得に売り、紙風の糸を切つて王家の庭へ落としたりし（上海・越劇『血手印』）、「売花記」故事において、張三娘が大難に遭うことを予知して樵に変身して下界に降り、曹家の門前で花を売ると忠告して金丹を吞ませ（安徽・黄梅戯『売花記』、花鼓戯『売花記』、廬劇『売花記』、湖北・東路花鼓『売花記』、上海・越劇『売花三娘』、浙江・紹劇『節孝図』、「張文貴」故事では、張文貴の妻朱孝蓮の上京を早めるために、虎に変身して姉弟を離散させる（湖北越調『双鳳山』）。

3. 雷神——正義の象徴であり、悪人を撃ち殺す。『太平広記』では、孝廉の科目を受験する者を嫉妬して、妹を娶つたので受験できないと宣言し、兄妹を自殺させた同輩を撃ち殺したり（漢劉向『列女伝』、『太平広記』卷三百九十三、雷、「李叔卿」）、放生すべき朝貢の羊を殺して売った掌膳官を撃ち殺し（唐釈道世『法苑珠林』、『太平広記』同卷、「封元則」）、境界争いをする二州のために境界線を作つたりする（前蜀杜光庭『録異記』、『太平広記』同卷、「漳泉界」）。「包公案」

では、「生死牌」故事において、劉子宗を殺した後妻馬氏と連れ子宝珠を撃ち殺し、墓の中から兄に代わつて受刑した劉子明を救出する（浙江・婺劇『節義賢』）。

4. 風神（韓祭仙・韓継仙）——「大鰲山」故事では、田半城の妻羅鳳英が大鰲山を見に出かけて、侍女とともに風神韓祭仙を侮辱したため、その怒りを被つて夫妻離散の災禍を被る（山東・柳琴戯『大鰲山』、安徽・泗州戯『大鰲山』）。

5. 火神——天帝の命を承けて火災を起こす。「鋼判官」故事では、火帝真君は上神（天帝）の命を承けて灯籠棚に火を着け、王延齡に追い出された婚約者楊福昌の後を追う娘桂英を失踪させ、王屠に殺害される災禍を被らせる（河北・四股弦『九華山』、山西・上党落子『九華山』）。「天子祿」故事では、天帝の命を承けて、太師杜文煥に焼き殺されようとする皇孫を火中から救出する（河北・四股弦『天子祿』、山西・蒲州梆子『藥酒計』）。「大鰲山」故事では、国舅曹五能に焼き殺されようとする田半城を救出して、貴州へ避難させる（山東・柳琴戯『大鰲山』、安徽・泗州戯『大鰲山』）。「天劍除」故事では、玉帝の命を受けて党家を焼き、党夫人を救出するが、次男党道は父母が死亡したと上奏していたため、母を足蹴りして追放する（山西・北路梆子『天劍除』）。「無頭案」故事では、上帝の命を受けて秀才韓義龍の家を焼き、韓義龍は員外白能が表弟李克明を殺害して埋めた書齋を借りて、殺人事件が発覚する（山東・平調『無頭案』）。

6. 閻羅——冥界の裁判を行う。『太平広記』では、晋陸機『洛陽記』

〔太平広記〕卷九十九、釈証、「惠凝」では「閻羅王」、前蜀杜光庭「仙伝拾遺」〔太平広記〕卷四十四、神仙、「田先生」では「王者」、唐牛肅「紀聞」〔太平広記〕卷百、釈証、「僧齊之」では「鬼王」、唐戴孚「広異記」〔太平広記〕卷三百五、神、「李佐時」では「大王」と称する。「包公案」では、「張文貴」故事において、五殿閻君秦広輝が小鬼・鶏脚神に地獄の門を開かせて張文貴を審判し、判官に生死簿を調べさせてまだ六十歳の寿命があることを知り、土地公を呼んで張文貴に妻の夢の中で包拯に訴えるよう告げさせ（湖北越調『双鳳山』）、「売花記」故事において、生死簿を見て曹鼎の寿命を二十歳削って張氏に与え、五男二女を儲ける幸運を授けて甦生させる（安徽・黄梅戯「売花記」、花鼓戯「売花記」、湖北・東路花鼓「売花記」）。

7. 判官——判官は、冥界の裁判を行う。「包公案」では私情を入れて包公に誅罰される「劔判官」故事があり、「太平広記」を見ると、殺生をして陰司で畜生に告訴された甥を救助したり（唐牛肅「紀聞」、『太平広記』卷百、釈証、「屈突仲任」）、判官の叔父が宰相の任期を審判したり（唐韋絢録「劉賓客嘉話録」、『太平広記』卷百四十六、定数、「宇文融」）、崔判官が姪の女道士を捕らえた太守を叱咤したり（唐闕名「玉堂閑話」、『太平広記』卷三百一十四、神、「崔鍊師」）、亡兄が判官になったため死を免れ、将来の進退を知らされる（唐鍾輅「前定録」、『太平広記』卷百五十二、定数、「薛少殷」）話が載せられており、「劔判官」故事の原典として考えることができる。「包

公案」では、「八件衣」故事において、判官は酆都城を開けて馬成・馬洪・知県楊風・捕吏白士剛を審問し、馬成を富豪の家に転生させ、白士剛・馬洪を吊して鞭打ち、楊風を百尺の狼牙棒で打ち、自害した寶秀英に、処刑される馬存英の死体を借りて甦生させ、現世の裁判を受けさせるために容疑者たちの靈魂を下界に送り（山東梆子「陰陽断」、山西・蒲州梆子「八件衣」、河南・越調「陰陽断」）、「劔判官」故事において、判官倪恒が、生前嚴天官の秘書であり、誤審によって罰棒を加えられて自害して死後閻羅天尊から判官に任用されており、従兄李保の犯行を隠蔽するため、また嚴天官に対する恨みを晴らすため、卯簿を改竄して嚴査散の犯行とし（安徽・泗州戯「小鰲山」）、「張文貴」故事において、三曹官が予言を行い、張文貴が二龍山で剛秀英を妻とすることや、張文貴の妻郭素真が楊東志に水牢に幽閉されるが、包公によって救出されることを予言し（山東・柳琴戯「二龍山」）、「避風簪」故事において、北番国の皇子于虎が、朝貢の宝物避風簪を天子が包夫人に贈ったため、病死して上神から耿直さを評価されて三曹官となり、奪い返して夢の中で弟子龍に渡す（山西・上党落子「避風簪」、山東梆子「避風簪」）。

8. 城隍——城隍は包公の下にあって事件の調査を行う。『太平広記』では、死者を捕縛して審問する任務を負う（唐闕名「報応録」、『太平広記』卷百二十四、「王簡易」。唐牛肅「紀聞」、『太平広記』三百三、神、「宣州司戸」）。「包公案」では、「劔趙王」故事において、包公に事件調査を命じられ（河南・豫劇「劔趙王」、山西・上党梆子

「明公断」、報告しないと閻王を処刑し丹墀を焼くと脅され（山東梆子「劔趙王」）、「劔判官」故事においては、包公に召喚されて王桂英の行方を尋ねられ、答えられないため草枷を掛けられる（山西・上党落子「九華山」）。また「大鰲山」故事においては、羅鳳英の夢に現れて、母子を引き合わせようとするが、羅鳳英が城隍廟で二児を探し出せず城隍に煉瓦を投げつけたため、怒って二児に瞋睡虫を投げつけて眼を覚まさせないという意地悪をする（安徽・泗州戯「大鰲山」、山東・柳琴戯「大鰲山」）。

9. 土地——庶民に親しまれた存在で、主人公の困難を救う。「太平広記」では、死者を泰山へ送る役を負う（劉宋劉義慶「幽明録」、「太平広記」巻二百八十三、巫、「師舒礼」）。また山林の守り神である（唐牛肅「紀聞」、「太平広記」巻三百三十一、鬼、「楊溥」）。「包公案」では、「秦香蓮」型故事において、劉文素の子女が難に遭っているのを知って、劉の新妻李鳳英の夢に現れて、子女を救わないと災星を散布して百日間瘡疾を患わせると脅し（山東・柳琴戯「東秦」、「張文貴」故事において、閻君の命令に従って張文貴の靈魂を自宅に導き（湖北越調「双鳳山」）、「釣金龜」故事において、父母に捨てられた包公を嫂何鸞英に救出させ（安徽・泗州戯「断双釘」、「袁文正」故事において、国舅曹二本に殺害された韓芙蓉の死体に乗せた黒驢を開封府へ導いて堂鼓を打たせ（山東・柳琴戯「鉄板橋」、安徽・泗州戯「井泉記」）、「瓦盆記」故事において、包三郎の夢に現れて照妖鏡を授け、他日昇進して陰陽を管轄することを予言する（江西・青

陽腔「瓦盆記」）。

10. 九天玄女——女性を援助する。「五長幡」故事では、国舅曹二本に殺害された秀才呉迎春の妻王貴英に代わって「五長幡」の刺繡を完成し、王貴英に街に売りに行かせるが、貴英は吏部尚書王洪に捕らえられる（山東・柳琴戯「五長幡」）。「張文貴」型故事では、東路界牌関の靳士春の娘秀英が書生王子義の側室となる姻縁があるのを知って、醒酒氈・蜜蠟燭・美人瓶・飛龍劍の四種の宝物を贈る（湖北越調「四件宝」）。

11. 三官神——「秦香蓮」故事では、三官神は自縊した秦香蓮の死体を保護し、その子女恩哥・冬妹に夢の中で武芸を教える（安徽・廬劇「秦香蓮」）。

12. 斗府娘娘・待真子——「瑞羅帳」故事では、斗府娘娘に仕える仙女待真子が七夕の日に干した瑞羅帳を白猿に盗まれ、主人公奎吉に災禍を避けて他郷へ避難せよと諭し、そこから事件が発生する（山西・蒲州梆子「瑞羅帳」）

13. 関羽——「秦香蓮」故事では、関帝廟に泊まった英哥・冬妹が夢の中で周倉から兵法を教わり、後に武功を立てて朝廷に起用される（安徽・泗州戯「琵琶詞」、湖北越調「琵琶詞」）。

14. 西天仏祖——「陰陽報」故事では、旅館の主人陳英に殺害された姜龍和尚に報復のため、陳英の家に転生することを許し、送子婆に送らせる（山東・両夾弦「陰陽報」）

15. 観音・韋駄——庶民の苦難を救済する。特に弱い女性の味方であ

る。『太平広記』では、華山神に強奪された県令の妾を奪い返す（唐牛肅『紀聞』、『太平広記』卷三百三、神、「韓光祚」）。「包公案」では観音菩薩の出番は多く、「張文貴」型故事において、韓月花に代わって庄殺刑に遭った進士周瑞龍の娘周金蓮の死体を保護し、事件が解決した後、蘇生させ（河北・糸弦「鷄頭山」）、「鯉魚精」故事において、花籃から逃げ出して東京へ遊び、書生劉霞玉を見初めて金美栄に変身して書生劉霞玉を惑わした鯉魚精を南海へ連れ帰り（山東・柳琴戲「魚籃記」、湖北・東路花鼓「双牡丹」）、「秦香蓮」故事において、秦香蓮に兵法を授け、海千・海万の反乱を平定するために防身劍・捆仙繩を持たせて下山させ（安徽・泗州戲「琵琶詞」、湖北越調「琵琶詞」）、「秦香蓮」型故事において、分水夜叉に命じて水平星の転生である王氏を盲目にして保護させて海東倣来国の土地廟へ運ばせ（山東・柳琴戲「東秦」）、「袁文正」型故事において、包公に偽装した国舅曹二本に殺害された秀才原周同の妻韓芙蓉に赤い仙丹を吞ませて甦生させ（山東・柳琴戲「鉄板橋」）、「天劍除」故事において、旅館の女主人に変身して、夫党道を諫めて殺された妻劉氏に靈芝・人参を調合した薬を飲ませて甦生させた後、養女として保護し（山西・北路梆子「天劍除」）、「また五道神劉文龍に命じて、悪僕党小に殺された朱氏の靈魂を頭から入れ、仙丹を口から入れて甦生させ（安徽・泗州戲「小欺天」）、「劊判官」故事において、包拯が誤って処刑した嚴查散の死体が腐乱しないよう保存し（安徽・泗州戲「小鰲山」）、「生死牌」故事において、韋陀仏に命じて、兄劉子宗に代わっ

て処刑される劉子明の口の中に養神珠を入れて、死体の腐敗を防ぎ、後に包公が城隍・土地に命じて劉子明を還魂させる（浙江・婺劇「節義賢」）。

16. 神仙——不特定の神仙。「包公案」では「血手印」故事において、林招得の処刑執行に臨んで、老神仙が法気を吹きかけ、繩を解き刀を絶って、包公に林招得が冤罪であることを知らせ（山東梆子「小祭椿」）、「瓦盆記」故事において、神が李妃の夢に現れて、神官包拯が天齊寺に到来するので訴えよと告げる（江西・青陽腔「瓦盆記」）。

17. 龍神——水神として主人公を庇護する。『太平広記』では、龍女が報恩のために書生に嫁いだり（唐陳翰「異聞集」）、「太平広記」卷四百十九、龍、「柳毅」、金龍は上玄使者であり、その宝珠を奪えば大惨事を招くと土地神が書生に警告したり（唐裴鉞「傳奇」）、「太平広記」卷四百二十二、龍、周郎）、老婆の飼育する頰鯉が龍であり、その遺した珠が老婆の長子の病を癒したりする（唐李隱「瀟湘録」）、「太平広記」卷四百二十四、龍、汾水老姥）。「包公案」では、「仁宗認母」故事において、失明した李太后が金盆を空にかざすと、龍が出現して聖水を降らせ、李太后の目を快復させ（河南・豫劇「劊判官」）、「雲中落繡鞋」型故事において、龍王三太子が蟒蛇の洞窟で張忠信に救われて洞窟を出ることができ、その後張忠信が弟忠義に毒殺されたので、報恩のため、甦生させて包拯に訴えさせ（安徽・廬劇「柴斧記」）、「張文貴」故事において、楊東志によって毒殺され井戸に投げ込まれた張文貴を保護して、後に包公によって復活させ

(山東・柳琴戲『二龍山』)、「秦香蓮」型故事において、劉文素の部下に殺害され、周橋から水中に捨てられた妻王氏の靈魂に子女の夢に現れて訴えさせることを許し(山東・柳琴戲『東秦』)、「袁文正」型故事では、原周同の靈魂が井戸を抜け出し、曹国舅邸を騒がすことを許し(山東・柳琴戲『鉄板橋』)、「鮮花記」故事において、東海龍王敖広の娘敖秀英が万花山に遊んで、山賊東方明に囚われた書生姜文挙を救出して求婚し、後に姜文挙を黄桂英の棺の中に合葬して結縁させる(安徽・泗州戲『鮮花記』)。

18. 孫悟空——「鬧東京」故事に登場し、天将として活躍する。「包公案」では、「八宝山」故事において、千里眼・順風耳の協力を得て、世間を騒がせた八宝山の柳子公を捕らえて西天の如来仏のもとへ送る(安徽・廬劇『八宝山』)。

19. 鍾馗——「包公案」では、「瓦盆記」故事において、鍾馗は包拯の夢に現れて、趙大が劉世昌主従を殺して銀三百両を奪ったことを告げる(江西・青陽腔『瓦盆記』、弋陽腔『断瓦盆』)。

20. 門神——家に邪鬼が入らぬよう門を守る神だが、「包公案」では、主人公を識別して家族と再会させ、「張文貴」故事において、張文貴の靈魂が門神に主人だと告げて家に入り、悪人楊東志を包公に訴えるよう妻郭素真に告げ(山東・柳琴戲『二龍山』、湖北越調『双鳳山』)、「売花記」故事において、国舅曹鼎に殺害された張氏が、秦・胡二門神の許可を得て、劉士進の夢に現れ、曹鼎を包拯に訴えるよう告げる(安徽・花鼓戲『売花記』)。

21. 祖先神——「包公案」では、「張孝打鳳」故事において、張孝が股肉を病氣の母に食べさせるため祖先堂で股を割いて気絶し、祖先神が代わりに張孝の股を割き、仙丹を吞ませて甦生させる(湖北・東路花鼓『張孝打鳳』)。

22. 呪神——民間では神に対する誓約は重視され^{①)}、ここに呪神の存在が想定される。「太平広記」では、心靈が神格化しているが^{②)}、呪文は神格化しておらず、唐の中宗が、後に帝になるならば石が落ちると呪文を唱えたり(唐李元「独異志」)、「太平広記」巻百三十五、徵応、「唐中宗」、孫氏が張承を懐妊して白蛇を見、吉祥であれば嘔むなど呪文を唱えたり(前秦王嘉「王子年拾遺記」)、「太平広記」巻百三十七、徵応、「張承」、都督が調理されようとする牛に、もし跪けば救つてやると唱えながら、殺してしまつたり(唐余知古「渚宮故事」)、「太平広記」巻四百三十四、牛拜、「桓冲」することを記す。「包公案」では、「張文貴」型故事において、旅館の主人王小が兪自楨と義兄弟の契りを結び、天に誓いを立てて、「もし偽りであれば包公の銅劍で死ぬ。」と唱えると、呪神が登場して扨子で王小を打ち(安徽・皖南花鼓戲『平頂山』、安徽・黄梅戲『二龍山』)、「揺銭樹」故事において、崔文瑞が口約束だからと軽く考えて、張四姐と結婚の約束をし、嘘をついたら瞎になると誓つて呪神を犯すと、瞎になつて帰る道を探す(湖北・東路花鼓『鬧東京』)。

23. 鳥神——「太平広記」では、鳥が銭を落とすと富兆だとし(唐闕名「玉堂閑話」)、「太平広記」巻百三十八、徵応、「張錢」、鵲が巢を

作るのを見て昇進の吉兆とし（唐段成式『酉陽雜俎』、『太平広記』卷四百六十一、鵲、「崔円妻」）、鸚鵡が鳥たちを山火事から守るために羽を水に濡らして火を消そうとし、天神を感動させる（劉宋劉敬叔『異苑』、『太平広記』卷四百六十、禽鳥、「鸚鵡救火」）。鳥類は霊鳥と考えられていたことが分かる。「包公案」では、「血手印」故事において、太白金星が林忠徳を婚約者である黄秀蓮に引き合わせるため林に鸚鵡を渡し、鳥神が林を黄家の花園へ導く（安徽・黄梅戯「血掌記」）。

24. 蒼蠅神——血に群がる蒼蠅を神格化したもので、『太平広記』では、揚州刺史嚴遵が死体の頭部に群がる蠅を見て、錐を頭部に貫通した殺人事件だと判定する（晋陳寿『益都耆旧伝』、『太平広記』卷百七十一、精察、「嚴遵」）。潤州刺史韓滉の場合も、青蠅が頭部に群がっていたことから釘で殺害したと判じる（唐段成式『酉陽雜俎』、『太平広記』卷百七十二、精察、「韓滉」）。「包公案」では、「血手印」故事において、処刑執行時に蒼蠅神が三度刀を押さえて妨害し、摧命鼓の皮に贅字を描いて真犯人を暗示し（安徽・泗州戯『血掌記』）、また蒼龍神が蜘蛛の巣にかかったところを林召徳に救われたため、林召徳の処刑を妨げて救うともいう（湖北・越調『血手印』）。

25. 牌坊神——「下陳州」故事の中に登場し、柏順が左連登の妻羅氏に横恋慕して左連登を殺害した事件で、包公は殺害現場の石牌坊に棒打四十を加えると、牌坊神は犯人柏順の脚に繩を掛けて動けなくする。包拯が桃木枷を牌坊神に懸けると、牌坊神は柏順を包拯の前

に突き出す。牌坊神は包拯に打たれた恨みを晴らすため老人に変身して四国舅に包拯が城隍廟に隠れていることを密告する（山東梆子「下陳州」、河南・豫劇『審牌坊』）。

26. 橋神——「劊判官」故事では、州橋の橋神崔覺が劊判官の委託を受けて嚴査散と柳金蟬に金簪核桃を与えて声を出なくして橋下に監禁する（安徽・泗州戯『小鰲山』）。

27. 窰神——「大鰲山」故事では、窰神が寒窰に泊まった東斗星・水星の転生である羅鳳英の子女を雲南の父親田半城の元に送る（山東・柳琴戯『大鰲山』）。

28. 扇神——「避風簷」故事では、西番国の王女子鳳花が風火扇を扇いで扇神を召喚し、宋国の胡青田を敗退させる（山西・上党落子『避風簷』）。

29. 鏡神——「避風簷」故事では、胡青田は金光鏡を撃って鏡神を召喚し、于鳳花の扇神を敗退させる（山西・上党落子『避風簷』）。

30. 旗仙——「五虎平西」故事では、旗仙が番王の娘双陽女に烈火旗を贈り、双陽女は烈火旗によって狄青を打ち破り、宋軍に投降する（山東梆子『狄青』）。

31. 鉄拐李——八仙の一人。「鬧磁州」故事では、下界に降りて張生を誘惑した弟子の栗精を収める（山東梆子『鬧磁州』）。

32. 黄花仙——「雲中落繡鞋」故事に登場し、白蟒精に救世還魂丹を与えて殺生を戒め、長沙の石玉が平西將軍であることを知って、混元針を贈り、石玉は後に混元針を使って白蟒精を斬る（上海・越劇

『雲中落繡鞋』。

四 「包公案」の中の人鬼

殺害された主人公の怨霊は、加害者に復讐するため、親族や包公の夢の中で訴えたり、加害者に取り憑いたりする。『太平広記』では、冤罪で誅殺された公孫聖の亡霊が敗走する呉王夫差の行く手を阻んだり（北斉顔之推『還冤記』、『太平広記』卷百十九、報応、「公孫聖」、冤罪によって殺害された渤海王悝と宋皇后が天に訴えて漢靈帝の命を奪ったり（同上書、『太平広記』同上卷、「宋皇后」）^①、鵠奔亭の亭長に殺害された女子蘇娥が漢の交趾刺史何敞に訴え、何敞が帝に上奏して亭長の一族を誅殺したり（同上書、『太平広記』卷百二十七、報応、「蘇娥」、佐史等に殺害された館陶県主簿の周某が妻の夢に現れて殺害の状況を語り、妻が官に訴えて佐史等が処刑されたり（唐釈道世『法苑珠林』、『太平広記』同上卷、「館陶主簿」）する話を載せており、「包公案」はこれらの復讐故事を継承していると考えられる。

「包公案」では、「釣金龜」故事において、張義の亡霊が母親の夢に現れ、城隍廟に泊まっている包拯に訴えよと告げたり（山東・両夾弦『断双釘』、安徽・泗州戯『断双釘』）、「張文貴」型故事において、薛仁の亡霊が妻韓月花の夢に現れて、旅館の主人楊虎夫妻に殺されて宝物を奪われたことを訴えたり（河北・糸弦『鷄頭山』）、「秦香蓮」型故事

において、劉文素に殺された妻王氏の亡霊が龍王老爺の許可を得て子女の夢に現れたり（山東・柳琴戯『東秦』）、「劉趙王」故事において、司馬広の亡霊が弟司馬都の夢に現れて趙王への復讐を託したり（山東梆子『劉趙王』、山西・上党梆子『明公断』）、「劉判官」故事において、嚴查散の亡霊が開封府から自宅へ帰り、門神に主人だと告げて中に入り、旋風で屋根の土を吹き飛ばし、母の三尺の火を抑えて、夢の中で柳洪の誣告によって処刑されたことを告げたり（安徽・泗州戯『小鰲山』）、「売花記」故事において、張三娘の亡霊が秦・胡二門神の許可を得て三更に夫劉士進の夢に現れ、国舅曹鼎を包拯に訴えるよう告げたりする（安徽・花鼓戯『売花記』）。また亡霊が閻羅に訴える故事（安徽・泗州戯『小鰲山』の嚴查散と柳金蟬、安徽・黄梅戯『売花記』の張氏）、亡霊が加害者に取り憑く故事（河南・豫劇『審牌坊』の劉秀生、山東梆子『劉趙王』の司馬広とその妻王氏、安徽・泗州戯『小鰲山』の柳金蟬、湖北越調『双鳳山』の李自楨など）、亡霊が親族を守る故事（浙江・婺劇『節義賢』の劉子明、山東・柳琴戯『五長幡』の張氏）もある。

なお亡霊が包公に訴える故事については、次章に譲ることとする。

五 「包公案」の中の包公

「包公案」において、包公は「白天判陽、夜裏判陰」と言われるよ

うに、その裁判は冥界と現世にまたがっており、民衆の宗教観を反映している。『太平広記』には、并州録事参軍の于昶が「昼決曹務、夜判冥司」（昼に役所の務めをし終えて、夜に冥界の裁判を行う）の辛苦を妻に告げる話（唐唐臨『報応記』、『太平広記』巻百四、報応、「于昶」）、荊州枝江県主簿夏采が「判冥司」を務め、県丞の妻に殺害されて廁に捨てられた婢の訴えを聴いて、妻に婢の骸骨を洗って手厚く葬らせるが、婢は許さず妻は病死する話（唐張鷟『朝野僉載』、『太平広記』巻百二十九、報応、「張景先婢」）、前遂州長江県丞夏文采が「判冥事」を務め、張鷟が柳州に左遷されることを予言した話（同上書、『太平広記』巻三百二十九、「夏文采」）を載せており、「包公案」はこの「判冥」故事を継承していると考えられるが、包公は悪人の福祿寿を削るという冥界の審判を下すことは少なく、亡霊に代わって現世で審判を下す、前掲の「報応」故事の類に属する場合が多い。

亡霊の訴えを聴く「包公案」は、宋元以来多く創作され、現代に継承されている。「売花記」故事では、張氏の霊魂は風を起こし、陳州から帰京する龍図大学士包拯の轎の屋根を吹き上げて曹家の西北の花園の天斎廟に落とし、夜三更に包拯の夢に現れて曹国舅に殺害されたことを訴える（安徽・黄梅戲『売花記』）、「張文貴」型故事では、包公が陰牌を掛けると、犯人王小二が李志珍の霊魂に操られて登場し、李志珍と名乗って王小二と王道宗を訴える（安徽・黄梅戲『二龍山』）。

また閻羅を包公とする話があり、「乾坤嘯」故事では、包公は韋妃に殺害された女官卜鳳を審問するため、陰服に着替えて冥界に赴き、崔

判官に枉死城から卜鳳を召喚させ（山西・蒲州梆子『乾坤嘯』）、「売花記」故事では、夜間に烏台に坐して閻羅天子包に変身し、獄主霊官に張氏の霊魂を召喚する（上海・越劇『売花三娘』）。その他、上海・越劇『血手印』、浙江・紹劇『節孝図』、浙江・婺劇『節義賢』に同様の話がある。

包公の神通力の一つとして死者の復活がある。包公は還魂のための床・枕・杖・帯・扇・帽などを具備しており、被害者を復活させて証言させ、悪人を捕らえて処刑する。「張文貴」故事では、張文貴の死体を黄昏（還魂）床に置き、東南の方角を指さして安魂郎を招き、狼牙杖で七十二回触れて、大声で貴公子よ甦れと三度叫ぶ（山東・柳琴戲『二龍山』）、「売花記」故事では、張氏の死体を回魂床に置いて陰陽宝扇で扇ぎ、夫劉士進に熱気を送らせて甦生させる（安徽・黄梅戲『売花記』）、「香蝴蝶」故事では、主人徐士鑑を救って蘇氏から殺害された侍女銀香に還陽帯を着けて甦生させる（上海・越劇『香蝴蝶』）、「雲中落繡鞋」故事では、白鼠の示唆で槐樹の下から王恩に殺害された石玉の死体を発見し、温涼帽を七日間被せて甦生させる（上海・越劇『雲中落繡鞋』）。この他、復活の法具として還魂圈（浙江・紹劇『節孝図』）、追魂鞭・還魂袋（湖北越調『双鳳山』）、鷄毛・楊柳枝（安徽・泗州戲『井泉記』）、仙丹（山東・柳琴戲『鉄板橋』、上海・越劇『玉麒麟』）、養神珠（浙江・婺劇『節義賢』）などがある。仙丹については、『太平広記』に、楊大夫が返魂丹を作って病死者を復活させた故事（前蜀杜光庭『神仙感遇伝』、『太平広記』巻三百七十八、再生、「楊大夫」）が

先行する。

また包公は冥界に赴いて事件の調査をする。その際に赴陰床（河北・四股弦『九華山』）、還魂床（山東・柳琴戲『珍珠汗衫』、安徽・泗州戲『八盤山』）、涼戸床（山東・両夾弦『陰陽報』、山西・上党落子『九華山』）、挺屍床（安徽・泗州戲『小鰲山』）、陰服（山西・蒲州梆子『乾坤嘯』）、游仙枕（山東梆子『避風簷』）という法具を使用する。

*

包公の現世の司法官としての特色は、機智で事件を解決する点にあり、元雜劇はこうした話が大半を占めている^(註)。民衆は鬼神の神判だけを期待していたわけではなく、現世の司法官の機智を働かせた活躍にも期待を抱いていたのである。機智は臨機応変の知恵であり、不用の時に用いるものではない。元雜劇では、法律の通用しない特権階級である「権豪勢要」に対して用いられた。「包公案」では、こうした特権階級を開封府へ招待して捕らえる話が多い。「張文貴」故事では、陳州で蓄えた銀を分けようと偽って賢王楊東志を開封府へ招待する（山東・柳琴戲『二龍山』）。「秦香蓮」故事では、太監韓琪が馬賊に殺されたと陳士美に伝えて陳を開封府へ召喚する（河北梆子『秦香蓮』）。「大鰲山」故事では、陳州で美女を手に入れたと誘い水を出して、曹五能に強奪した羅鳳英を奥から出させる（山東・柳琴戲『大鰲山』）。「水湧登州」故事では、駙馬劉英を宴会に招待して水酒を飲ませ、洪水で救われた恩人を裏切ったことを責める（安徽・黄梅戲『水湧登州』）。「張文貴」型故事では、太師王都を宴会に招待し、董氏と兪秀英の訴えを

故意に退け、王都が知らずに裁判すると言うのを待つ（安徽・皖南花鼓戲『平頂山』）。

またその際に包公が悪人に三つの案件について意見を求めるふりをする場面を設ける。「張文貴」故事では、賢王楊東志に対して、荷車推しが黄犬を轢き殺した案件において、「悪狗が路を闖った」罪で荷車推しに棒打四十を加えたこと、東家の瓢箪が西家の瓶に結実した案件において、「根扎が正しくない」として東家に棒打を加えたことを語り、暗に楊東志の素性を罵倒した上で、証人を出して楊東志を裁くのである（山東・柳琴戲『二龍山』『四宝山』、湖北越調『双鳳山』）。また「売花記」故事では、曹鼎の家に立ち寄って、張家の瓜が李家へ延びて両家が瓜を争った事件、黄犬が手押し車に轢かれて死んだ事件、封疆大臣が庶民の娘を誘拐した事件について意見を求め、最後の事件について曹鼎が「王子が法を犯せば、庶民と同罪」と言うのを待つて処刑する（安徽・花鼓戲『売花記』）。

その他、宝物があると騙して部下を井戸に下ろして被害者の死体を捜させたり（山東・柳琴戲『二龍山』、安徽・泗州戲『井泉記』、山東・柳琴戲『鉄板橋』、江蘇・揚劇『包公告状』、湖北越調『四件宝』、湖北・東路花鼓『売花記』）、犯人の妻を騙して証言を得たり（山東梆子『小祭椿』、安徽・黄梅戲『血掌記』）、共犯者の宦官を「郭千歳」と煽って真相を聞き出したり（河北・四股弦『天子祿』、山西・蒲州梆子『薬酒計』）、楊文広と仇敵を装って太師杜文煥から毒酒で皇子趙子丹を殺したことを聞き出したり（河北・四股弦『天子祿』、山東梆子『天賜鹿』、

山西・蒲州梆子『薬酒計』、妓女に鬼神・肖玉英の亡霊に扮装させて和尚孫明秀を脅し、肖玉英殺害を自供させたり（安徽・黄梅戲『白布記』、湖北・東路花鼓『白布記』）、冥界裁判を設定し、仁宗は閻君、包拯は判官、張龍・趙虎は小鬼に扮して、表妹劉妃と謀って皮を剥いだ猫と太子をすり替えたことを郭槐に自供させたり（江西・青陽腔『瓦盆記』）、夫人李氏の智慧を借りて病死を装い、皇太后から白玉帯を借りて楊小二に殺された書生劉文英を甦生させたり（安徽・廬劇『白玉帯』）、自供したら帰宅を許すと騙し、宝珠に母馬氏と共謀して定申を殺そうとしたが誤って父を殺し、定申を誣告したことを自供させたり（浙江・婺劇『節義賢』）、その機智は駆使される。

なお包公には「龍頭閣學士」伝説があり、仁宗が龍頭拐杖で打つと、包公は龍頭を手に託して龍頭閣大學士・托龍骨首相に任命され、陳州査察を応諾する（山東梆子『老包封相』、河北・四股弦『打鑿駕』）というのも、機智人物としての包公をよく表現している。

*

「包公案」の特色の一つは、包公が首を賭けて犯人などと対決することであり、ストーリーに緊張感を与えている。「打賭」は民間の習俗であり¹³⁾、「下陳州」故事では、証人張桂英を捜し出すために四圍舅曹虎と首を賭け（河南・『下陳州』）、「秦香蓮」故事では、陳世美の左眉が高く右眉が低いのを見て必ず妻子があり、百日以内に上京すると断言して首を賭け（山東・東路梆子『劉美案』、安徽・泗州戲『琵琶詞』）、「劊判官」故事では、冥界で王桂英を捜す包公が閻羅と賭をし、桂英が

見つからなければ包公が九層の刀門をくぐり、桂英が見つければ閻羅が銅劍で処刑されると誓い（山西・上党落子『九華山』、河北・四股弦『九華山』）、「天子録」故事では、三日以内に太師杜文煥を捕らえなければ逆立ちをすると誓って楊文広と賭をし（河北・四股弦『天子録』、河南・豫劇『天子録』）、「張文貴」故事では、百日以内に楊招を訴える者が無ければ南衙の職掌を譲ると言って楊招と賭をし（湖北越調『双鳳山』、山東・柳琴戲『二龍山』）、「袁文正」故事では、曹母の贈った底無し轎に乗って曹大本に出会し、逃げる曹大本の行く手を遮って、一か月以内に曹家の犯罪を証明することを宣告し、掌を撃って曹大本と賭をし（江蘇・揚劇『包公告状』、山東・柳琴戲『鉄板橋』）、「大鰲山」故事では、陳州へ放糧に出る包拯と大鰲山の監視をする曹五能が互いに悪事を犯せば処刑だと賭をする（山東・柳琴戲『大鰲山』）。こうした意味では、捕吏裕徳山に対して、三日以内に虎を捕らえられなければ棺を準備しておけと告げる（安徽・廬劇『拿虎』）なども、同じ趣向だと言える。

六 「包公案」の中の人間と動物

「包公案」では、包公一人の力で事件を解決するわけではない。様々な善良で勇氣あり、人情溢れる庶民が登場して、主人公や包公を支援している。

まず大きな支援者として主人公の配偶者がある。「八件衣」故事では、竇秀英が婚約者の張成玉の科挙受験の旅費を助けるために八着の衣服と銀十兩、鞋片方を贈り、衣服を質に入れた張成玉が盗賊として捕らえられたため、原告の馬翠英と対決し、もう片方の鞋を投げて自分の鞋であることを証明し、馬翠英の偽証を明かすが、衙役たちに笑われて自害する（山西・蒲州梆子『八件衣』、河南・越調『陰陽断』、山東梆子『陰陽断』、湖北・南劇『八件衣』）。「血手印」故事では、王孝蓮が婚約者林招徳の科挙受験の旅費を侍女を通じて渡そうとする（河南・越調『血手印』）。「秦香蓮」故事では、秦香蓮が皇女に屈服せず、包公も皇太后が子女を奪ったため、奪還して陳士美を処刑する（山東・柳琴戲『劉美案』）。「張文貴」故事では、山賊の娘梅秀英が書生張文貴を逃がしたため自害を迫る兄梅龍と交戦して刺し殺す（湖北越調『双鳳山』、安徽・黄梅戲『二龍山』、皖南花鼓戲『平頂山』）。「呼家将」故事では、山賊金御英が呼龍と戦って負傷し、山庵の姉莊金蓮の媒介で呼龍と結婚して二龍山で兵馬を訓練し、下山して父の仇の彭悦を打ち殺す（浙江・婺劇『逃生洞』）。

次に主人公に同情的なのは父母である。「血手印」故事では、林招得の父文朴が貧困を理由に婚約解消を求める王春華に抗議する（山東梆子『小祭橋』）。「釣金龜」故事では、張義の母康素真が城隍廟に泊まる包公を強引に訪ね、長男の祥符県官張選の犯行を訴える（安徽・泗州戲『断双釘』）。

主人公の家族以外にも、主人公に同情的な人物は多い。包公の周囲

には忠臣がいて、包公を支援し、主人公を救う。「下陳州」故事では、楊秉栄など楊家将が登場し、包公とともに陳州に入城し、四国舅を逮捕する（山東梆子『下陳州』）。「天子禄」故事では、楊文広が包拯と協力して杜文煥を捕らえる（河北・四股弦『天子禄』）。「呼家将」故事では、呼必顯の息子守勇・守信が龐妃の讒言によって一門が誅殺されたため、守勇は青唐国の兵を借り、守信は定天山を下山し、二人は合流して皇城を包囲する（浙江・紹劇『紫金鞭』）。「秦香蓮」故事では、丞相王延齡が秦香蓮を田舎の婦人に扮装させて陳士美の前でその不義を責めさせる（河北・河北梆子『秦香蓮』、山東・柳琴戲『劉美案』、安徽・泗州戲『琵琶詞』、廬劇『秦香蓮』、湖北越調『琵琶詞』）。「張文貴」型故事では、進士周瑞龍が悪人楊虎の書記となり、捕らえられた韓月花を保護し、その娘金蓮は父の命に従って韓月花の身代わりとなって死ぬ（河北・糸弦『鶏頭山』、山西・耍孩兒『对聯珠』）。

また犯人の肉親や家人が主人公を支援することがある。「瑞羅帳」故事では、陳文古の娘粉桃が、父が友人奎吉を陥れて宝物瑞羅を奪おうとするのを諫め、腹心の老僕に奎吉の次男奎瑞を逃がさせる（山西・蒲州梆子『瑞羅帳』）。「売花記」故事では、曹家の侍女翠蓮が、曹鼎に捕らえられた書生劉士進を纏足布を使って水牢から救出した後自害する（安徽・黄梅戲『売花記』、花鼓戲『売花記』）。「瓦盆記」故事では、趙大の妻馮氏が、夫が商人劉世昌を殺すことを知り、劉世昌を逃がした後自害する（江西・青陽腔『瓦盆記』）。「滴血珠」故事では、趙平南の息子全寿が、父母が伯父を殺したことを伯母田氏と従姉趙全瑤に知

らせ、二人を父母の魔手から救おうとする（安徽・廬劇『滴血珠』）。

「秦香蓮」故事では、駙馬府の門衛が、秦香蓮のスカートを裂いて香蓮が無理矢理闖入したと装い、秦香蓮を陳士美と引きあわせ（河北・河北梆子『秦香蓮』、山東・柳琴戲『劍美案』、安徽・泗州戲『琵琶詞』）、太監韓琪が、駙馬から秦香蓮母子の殺害を命じられるが、逃がして自害する（河北梆子『秦香蓮』、山東・東路梆子『劍美案』、安徽・泗州戲『琵琶詞』）。「天劍除」故事では、劉白通が党道から母の殺害を命じられるが、見逃して自分も逃亡する（山西・北路梆子『天劍除』）。

その他、「瑞羅帳」故事において、陳文古から銀五十両を騙し取って奎吉の食費に充てる捕吏楊慶（山西・蒲州梆子『瑞羅帳』）、「秦香蓮」故事において、秦香蓮に琵琶を抱いて清曲語りに扮し、丞相王延齡に訴えるよう示唆する旅館の主人張三羊（安徽・泗州戲『琵琶詞』）、「袁文正」故事において、拍子木と銅鑼を木に吊して風で鳴るようにして曹国舅を騙し、韓芙蓉を城外に逃がす巡邏張青（山東・柳琴戲『鉄板橋』）、「瓦盆記」故事において、包公に誤解されて打たれながらも、瓦盆の亡霊に代わって恨みを晴らす職人張別古（江西・弋陽腔『断瓦盆』）、「天劍除」故事において、宋王が龐吉の讒言を信じて一族を処刑したため、荒草山に逃げ延びて山賊となり、家僕党小に襲われた娘党鳳英を救助して、党小を殺す山賊東方青（安徽・泗州戲『三跪寒橋』）、「乾坤嘯」故事において、韋繼同から烏廷慶の子烏紹を打つよう依頼されるが逆に韋繼同を殴り、烏紹を捕らえに來た韋繼同の賭博仲間勾詐呆を斬り殺して、後に包公によって鉄星関の参將に推薦される酒鬼趙豹（山

西・蒲州梆子『乾坤嘯』）、「雲中落繡鞋」故事において高利貸し王恩に借金を迫られるが石玉に救われ、後に石玉の母が王恩に追い出されて自害するところを救って恩返しをする博徒劉得貴（上海・越劇『雲中落繡鞋』）、「軒轅鏡」故事において、貧乏人を救うために臨湖司曹功茂と節度司曹友斌が修築した九龍寺に盗みに入る江湖韓道青（浙江・紹劇『軒轅鏡』）、「八件衣」故事において、拷問で気絶した張成玉を救助し、城隍廟に泊まって冥界の判官の審判を目の当たりに見、開封府に報告する乞食仁義（河南・越調『陰陽断』、山東梆子『陰陽断』、山西・蒲州梆子『八件衣』）、「秦香蓮」型故事において、悪人を殺して山西から傲來国へ流浪し、劉文素に迫害された妻王氏を母親として世話する乞食張龍・李虎（山東・柳琴戲『東秦』）などの下層階級が、事件の解決に大きく貢献している。

「包公案」には動物も出現し、主人公の恩情に報いて救済する。「水湧登州」故事では、洪水の時に崔文から救われた鴉が若主人崔慶の投獄された監獄へ家僕小二を導いてその災難を知らせる（安徽・黄梅戲『水湧登州』）。「張文貴」型故事では、白馬が主人劉文英の死体を載せて開封府に訴える（安徽・廬劇『白玉帶』）。「拿虎」故事では、王婆の息子を食べた虎が王婆の義子となる（安徽・徽劇『拿虎』）。「雲中落繡鞋」故事では、母が鼠年であるので、石玉が鼠を追う猫を追い払うと、後に白鼠が殺された石玉の死体の在処を包公に知らせる（上海・越劇『雲中落繡鞋』）。「血手印」故事では、蒼蠅が蜘蛛の巣にかかって林召徳に救われたため、林召徳が処刑される時に刀を覆って邪魔をし、堂

鼓の上に「皮賛殺人」という語を記す（湖北・越調「血手印」）。

七 結 び

地方劇「包公案」の中には、河南越調「血手印」⁽¹⁾のように、迷信の排除に努めて、鬼神を出現させないばかりか、靈魂を証人として冥界から呼び出す包拯さえも登場させず、林昭徳と王孝蓮を引き会わせる黄鶯を、太白金星が売るのではなく、学友が林昭徳の貧困を憐んで贈ったものとし、犯人皮賛の犯行を証明するものを、怪奇現象とはせず、犯人の妻の白氏の告発としてある作品もある。しかしながらこうした作品は民衆の伝統的な陰陽の觀念を反映していない。「包公案」の構造について分析してみると、「太平広記」に記載されるような古来の神判を述べた感応故事や、死者の復讐を述べた報応故事などを継承しながら主人公の物語を形成しており、作中には包公だけではなく、様々な神祇や人物・動物を登場させて、民衆の世界観を表現していることが分かる。

注

(1) 吳沃堯『中国偵探案』（上海広智書局、一九〇六）には三十四条の公案を載せ、西洋の探偵話よりも優れていると評する。たとえば、冒頭の「断布」では、官が布の畳み方の巧拙を見て、布を詐

取しようとする客を裁く話で、野史氏（吳沃堯）は、「欧米の名探偵もこの明察の範囲を出ないのではないか。」と述べている。

(2) 張国風『公案小説漫話』（远流出版事業股份有限公司、一九九〇）は、公案小説では探偵小説とは違って事件の解決より事件が発生する社会生活の描写に重点が置かれることを指摘している。

(3) 黄文暘等編『曲海総目提要』（大東書局、一九二八）巻五「盆児鬼」には、先行する記事として『後漢書』巻百十一王恽伝の、王恽が卽令の時、女子の亡霊に衣服を与えてその訴えを聴いた故事を引く。

(4) 『曲海総目提要』巻一「蝴蝶夢」には、先行する記事として『列女伝』の、殺人を犯した兄弟がいずれも一人でやったと主張し、義母が実子である弟を服罪させようとするのを見て、宣王が美德として兄弟を許した故事を挙げる。

(5) 唐張讀『宣室記（志）』（『太平広記』巻三百七、神、「村人陳翁」）。

(6) 撰者不詳『靈怪集』（『太平広記』巻六十一、女仙、「成公智瓊」）。

(7) 北齊顔之推『還冤記』（『太平広記』巻一百一十九、報応、「宋皇后」）、唐陳劭『通幽記』（『太平広記』巻一百三十、報応、「竇凝妾」）。

(8) 前蜀杜光庭『神仙感遇伝』（『太平広記』巻十五、神仙、「道士王纂」）。

(9) 劉黎明『契約・神裁・打賭——中国民間習慣法習俗』（四川人民出版社、一九九三）参照。

(10) 唐李元『独異志』（『太平広記』巻二百七十七、夢、「北齊李広」）

に「心神」、劉宋劉義慶『幽明錄』（『太平広記』卷三百五十八、神魂、「龐阿」）に「靈神」を載せる。

(11) 『墨子』『明鬼篇』は、こうした例を引いて鬼の存在を証し、人心教化への貢献を説いている。

(12) 関漢卿『包待制智斬魯齋郎』（『元曲選』）、鄭廷玉『包待制智勘後庭花』（『元曲選』）、李潜夫『包待制智勘灰欄記』（『元曲選』）、無名氏『包待制智賺合同文字』（『元曲選』）、無名氏『包待制智賺三件宝』（『録鬼簿統編』）は、皆題名がその内容を表現している。

(13) 前掲劉黎明『契約・神裁・打賭―中国民間習慣法習俗』参照。

(14) 馮秀峯口述・張培榮抄録。河南省劇目工作委员会編印『河南伝統劇目匯編』（一九六三）収。